

2019年8月4日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「山の上で箱舟を造る」

聖書：創世記6:5～22

この物語は、神が造られた世界に悪が満ち、その悪を一掃するというお話。ここは神の思いに反する悪に満ちた人々への神の審判がくだされたということなのか。箱舟に乗ったノアの家族だけは悔い改めた人間、洪水にのまれ死んでいく人間は悔い改めない人間。この物語にはそういう理解がある。しかしこういう理解は、人間を「箱舟の中の人」か、「箱舟の外の人」かと見てしまう傾向にある。

今週、「広島原爆の日」を迎える。1個の原子爆弾で14万人以上が亡くなった。1945年8月6日の夜半に、テニアン島を出発して日本に向かったB29 エノラ・ゲイ。広島に原子爆弾を投下した空爆機であるが、飛び立つ直前に従軍牧師ダウネイはこう祈る。「全能の父なる神・・・敵地で戦うために、汝の天空高くを勇敢に飛翔せんとしているこの者たちと共にいましたまえ。定められた航程を導き、守護したまえ。御力によって彼らの任務を通して戦争の終わりが早められんことを。再び地上に平和が到来する旨の知らせが我らに届けられんことを。最後に、彼らが全員無事に帰還できることを、乞い願い奉る。アーメン」。

この祈りは叶えられたのか？歴史はその祈りの通りに進んでいるように見える。広島14万もの人々が死に原爆を落とした彼らは無事に帰還する。そして数日後に戦争は終結し、アメリカに平和が到来する。従軍牧師ダウネイの祈りの通りに歴史は動いているように見える。しかし、私たちは忘れてはいけない。神は、苦しむ者、悲しむ者・・・小さくされた者の側におられる。原爆投下の時、イエスは広島に居られたのである。

神はこの世の悪が満ちる時、ノアに「箱舟を造りなさい」という。この箱舟を造れとは何を意味しているのか？ノアは神の言葉を聞いて、その言葉を信じた。忍耐を持って箱舟を山の上で造る。これだけの箱舟を何年かけて造り上げたのか。人から見れば山の上で舟を造るのは馬鹿げたこと。しかしノアは、神の言葉を信じて実行した。この物語は、この世の悪に満ちた世界の中で、神の言葉に聞けということではないか。神の言葉に生きることは簡単なことではない。神の言葉に生きるとは、山の上で船を造るように、時に笑われることもある。私たちの信仰は、水辺で船を造りなさいという神の言葉だけを信じていないだろうか？人々に笑われないあり方に留まっていけないか？私たちは、山の上で船を造りなさいという神の言葉に従い得るだろうか？ノアの信仰に学びたい。

この後雨が上がり、神は「箱舟から出なさい」と言う。箱舟は留まる場所ではない。「神の国」は、箱舟から出て、この世の只中に見出されて行く。(神谷)